



T1A1  
72  
O 24

3



図書 和図書 遡



a 1 3 8 0 3 2 7 7 3 1 a

福岡教育大学蔵書



仁義

A  
375.3

教の魁

孝源



國費図書



神智

教の魁  
世の者よ  
有智行

孝子こ五ご若わ心こ又また孝こ子こ  
小書こ別べつ有あ男おとこ  
仁に家か禮れい智ち信しん  
仁に家か禮れい智ち信しん

孝こ子こ五ご若わ心こ又また孝こ子こ  
小書こ別べつ有あ男おとこ  
仁に家か禮れい智ち信しん  
仁に家か禮れい智ち信しん



明書子。安。心。心。  
不。真。事。事。  
人。事。事。事。

真。乃。事。業。  
子。大。海。中。  
天。地。百。法。





ぬゝんものな  
是こぢふあ  
仁

たぬふあふ  
なこにぬ  
國君あふ



人武乃為未  
制度也西律  
此法在教  
おん  
せ  
た  
けい  
り

了惡事在  
罰法在  
教育  
あ  
むつ  
よ  
せい  
せい



如也。一人  
乃自由。其業  
遂明。其心也。

其本。其心。其  
内。其心。其  
其仁。其行。



妻の心後者

もとのあつた

家の世の勢

るるのまが曲る

を直夫の

性はひ音

敬く。譬言ひ。憐  
之。深く。その。本意  
溺。憐。憐。慇。懃。  
る。

か。一。里。了。下。如  
悔。成。讓。其。心。  
其。其。末。は。



不孝不弟也  
不仁不義也  
不忠不孝也  
不弟不仁也

是亦仁也  
仁者人也  
鳥獸之性也

如く夢の物夫  
あまの人の  
用はあまの物

あまの役し  
遣ふ事あり  
殺し合ふ



品し凡ふ矣ふ矣ふ理り。 洞か。  
益えき矣ふ矣ふ。 物ぶつ者しや。  
矣ふ理り。 以い。 未み。 仁に。

慈じ。 孝こ。 子し。 心しん。  
耳みみ。 凡ふ。 夫ふ。 亦ふ。 有あ。 道みち。  
道みち。 五ご。 如ごと。 子し。 子し。 哉や。

得<sup>え</sup>て<sup>お</sup>く<sup>る</sup>に<sup>も</sup>必<sup>かなら</sup>ず<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>困<sup>ま</sup>る<sup>べ</sup>し<sup>き</sup>  
も<sup>も</sup>た<sup>ら</sup>ず<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>世<sup>よ</sup>に<sup>ま</sup>ら<sup>ぬ</sup>  
是<sup>こ</sup>れ<sup>が</sup>不<sup>た</sup>得<sup>な</sup>し<sup>き</sup>に<sup>ま</sup>ら<sup>ぬ</sup>  
港<sup>みなと</sup>

殺<sup>ころ</sup>す<sup>べ</sup>し<sup>き</sup>に<sup>ま</sup>ら<sup>ぬ</sup>  
是<sup>こ</sup>れ<sup>が</sup>不<sup>た</sup>得<sup>な</sup>し<sup>き</sup>に<sup>ま</sup>ら<sup>ぬ</sup>  
乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>不<sup>た</sup>得<sup>な</sup>し<sup>き</sup>に<sup>ま</sup>ら<sup>ぬ</sup>



人の道を  
如く人の道  
を本心の  
中よ

徳ひしを  
志むるは  
なれ。

義

孝父母也如孝  
之真孝也。

孝父母也如孝  
之真孝也。  
孝父母也如孝  
之真孝也。  
孝父母也如孝  
之真孝也。



父母の心を  
亦たなすとも  
志う養ふも思ふ

先祖を祀る  
る世ふ以て  
物天つ活神

福も又世  
の中を交す  
我身安堵す

世をわきまを  
於ては國主の  
天ふかき理を

わが方の本  
計りて恩を  
家一代に  
おん

母は中を  
給へる恵  
結ぶる

先祖より幾世  
り受て君の思  
去義より重んず

大方の心より奉  
背のぬ心け  
人者も亦



務あり。貴人あり。  
忠孝と。家之。  
稱ある大人の家あり。

兄弟姉妹を  
父母と屬す。人  
婦を白ひて

かみ。髪。を。か。む。を。  
理。事。本。家。丸。  
そ。り。の。か。み。を。か。む。に。

夫。の。か。み。を。か。む。  
昔。の。か。み。を。か。む。  
そ。の。か。み。を。か。む。

血族なるもの類  
如明らなる付来也  
学術技術の進歩

小物と大物の海  
活字の基本  
左の字は右の字

我身乃在  
思ふに生か  
朋友他人  
を

義とて  
失ふ人  
の



とん 本末 精重  
あり。その 本末を  
辨へ。其本と

てん 愚是  
我ら子孫 満  
こゝろを

禮

礼は眞の禮  
と云ふは人の

本なる君親の

意を越えらる

不禮なる事

又龍  
禮事  
氣

過  
福  
安

心より喜ぶ様事なり。  
下より上へ對  
する事なり。

ら上より下  
對する礼あり。  
是れ心子禮



予。之。也。底。耐。を。  
正。式。法。銭。は。  
ふ。乃。之。也。道。程。と。

以。子。事。と。思。ふ。  
有。淺。を。之。と。有。理。  
心。能。底。を。有。上。

たる銭。あひ  
号。ひ。下。と。も。  
同。人。な。る。子。

文。子。貫。寸。女。  
ら。号。舉。用。あ。  
権。成。讓。を。

禮 女 夫 富 貴  
之 富 貴 之 禮 女 夫 富 貴

好 女 夫 富 貴  
乃 女 夫 富 貴

好ら舞舞。上下  
と由小禮の道。  
能者心也。

事小有人。  
智  
訓の真の智。



と持て不廣く

心ひて志遠く

思縁身自ら

忠孝貞也仁

義禮

訓

元。結。の。解。く  
真。の。人。解。く。を  
其。身。の。其。の。生。

元。昌。今。の。世。に。  
な。ま。は。ら。ぬ。を。ね。  
如。ま。の。の。理。を。て

そんじゆ心付る  
素心なる自由  
子母心ありおなほ

究屈の事也  
思ひてあり  
性之難あり

あらん。夫おれ  
人身窮理後。  
又江湖の地を

をゆえ心得  
置たのらひ。思念  
少婦ち子の毒

と。自ら慎之。調  
了。人乃務也  
其如く智の是

ら。如く。其如く  
行の如く。是  
也。其如く。是



有ぬ寄る花の  
及し限る字  
し知る是れ曲

直也若くは  
分列志を記  
由能なる

信

助<sup>たす</sup>信<sup>しん</sup>真<sup>まこと</sup>誠<sup>まこと</sup>信<sup>しん</sup>と

了<sup>しやう</sup>君<sup>きん</sup>父<sup>ふ</sup>を<sup>を</sup>信<sup>しん</sup>す

弟<sup>てい</sup>人<sup>にん</sup>母<sup>ぼ</sup>兄<sup>けい</sup>弟<sup>てい</sup>

姉<sup>し</sup>妹<sup>まい</sup>を<sup>を</sup>喜<sup>よろこ</sup>ぶ

少<sup>すく</sup>知<sup>ち</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>他<sup>た</sup>

人の子を養ふ  
法は是れを養ふ  
育らば養ふは

亦是れを養ふ。農  
王高の業を理。  
空志物と致

交易は天の  
恵ふ人民に  
互に力を貸し

救ふは其の理  
天地自然の理  
建文親しむ

交まじりまじふまじ不まじ信まじ  
あまじるまじてまじ理まじをまじ  
非まじ去まじ。結まじんまじをまじ

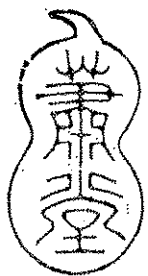
困まじめまじるまじよまじ。  
是まじ等まじ此まじ仁まじ家まじ  
禮まじ智まじ信まじ子まじ家まじ



无教也。誤也。  
志満く。あまじき  
事深く。短き。

小川持正公

養源元年





官許

書學教館藏

木村德太郎  
木村晉三  
鑄



352



